

蝶足膳○圖必ラズ外黒内朱也、此ゴトク高キハ女用也、然モ男用ハ蝶足ト云ザル歟、祝膳トモ云也、民間婚姻總客ニハ宗和ヲ用ヒ、新夫婦ニハ用之也、

京坂ハ正月必ラズ用之、平日用之者稀也、江戸ハ平日朝用之、午食夕食ニハ他ヲ用フ、此膳ニハ諸椀モ内朱外黒ヲ用ヒ、三都トモ然リ、江戸午食夕食ニハ茶碗也、

男用似之テ低キコト大略半也、故男女一組トスルハ高低ヲ本トス、

〔婚禮道具諸器形寸法書人〕猫足膳。

本膳 鏡板厚三分五厘、長一尺三寸七分、巾一尺三寸三分、縁高八分、足高七寸、

二膳 鏡板厚三分五厘、長一尺二寸一分、巾一尺一寸八分、縁高七分、足高六寸三分五厘、

三膳 鏡板厚三分、長一尺五分五厘、巾一尺、縁高六分五厘、足高五寸五分、

〔守貞漫稿後集類〕膳

中足膳○圖京坂俗或ハ猫足膳ト云、子コノアシニ形似タル故也、略式ニ用之、専ラ黒漆也、

〔調度口傳〕一板足の事

足打のすかしなく、婚禮に用ゆるは大サ三方に准すべし、

一大足打の事

これを木具とも云、五位以上表向のふるまひに用ゆ、寸法三方に准すべし、

一小足打の事

右に同じ、内々の時は五位以下の人用○中何れも、式正のものに白木を用、其儀によりて素うるしを用ゆ、是も白木はよごれやすきものゆゑ、略してぬりたる也、實は白木の場所に用ゆる也、

〔茶湯獻立指南〕足打御膳

表壹尺壹寸四方、縁の高さ壹寸五步、足の高さ四寸五步、本膳也、